



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3391 号 2016.12.8 発行

### 第1回パラスポーツ賞、大賞に競泳・木村敬一

読売新聞 2016年12月07日

今年の国内外の障害者スポーツ大会で優れた成績を収めた選手やチームを表彰する第1回日本パラスポーツ賞（読売新聞社制定）の選考委員会が7日、東京・大手町の読売新聞東京本社で開かれ、大賞に9月のリオデジャネイロ・パラリンピックで銀2、銅2の計4個のメダルを獲得した競泳男子（視覚障害）の木村敬一選手（26）（東京ガス）が選出された。

木村選手には賞金200万円、日本身体障がい者水泳連盟には同300万円が贈られる。

優秀賞にはリオ大会銀メダルのボッチャ日本チーム（脳性まひ）と、銅の車いすラグビー日本代表が選ばれた。新人賞は、リオ大会の陸上男子1500メートル（車いす）と400メートル（同）で計2個の銀に輝いた佐藤友祈選手（27）（WORLD-AC）と、陸上女子400メートル（切断など）で銅を獲得した辻沙絵選手（22）（日体大）に決まった。

### 損保2社 認知症列車事故も補償 個人賠償保険改定

毎日新聞 2016年12月7日

誤って人にけがをさせたり物を壊したりして損害賠償責任を負った場合に備える「個人賠償責任保険」で、三井住友海上火災保険など損保2社が来年1月、これまで補償されなかった列車の運行不能損害を対象に加える。認知症の人が起こした事故で、家族が高額賠償を請求されるケースなどに対応する。保険の見直しでカバーされるケースは増えそうだ。

【渡辺精一】

### 群馬) 障害者福祉施設の子にケーキ贈る 太田の洋菓子店

朝日新聞 2016年12月8日  
クリスマスケーキを贈る洋菓子店社長(右)=太田市役所(市提供)



太田市の洋菓子店「お菓子工房 ル・クレール」は5日、市内18の障害者福祉施設に通う子どもたちにクリスマスケーキをプレゼントした。

同店がケーキを贈るのは今年で10回目。今回はイチゴとサンタ姿のぐんまちゃんが載っている直径15センチのホールケーキで50個（1個3500円）。市役所でこの日、「ひまわり学園」（同市藤阿久町）の子どもが代表で受け取った。

オーナーパティシエの伴場浩二さん（59）は「子どもたちに笑顔でクリスマスを過ごしてもらえた

らうれしい」と言い、同学園の大野謙治園長（54）は「子どもたちが喜ぶので、さっそくおやつに出します」と話していた。



### 障害についての多角的に理解を深めた

内閣府では、毎年12月3日から9日までを「障害者週間」と定め、障害者の自立および社会参加への支援やさまざまな取り組み、行事を行っている。その一環の「連続セミナー」の1つ、「発達障害児教育への支援～音声教材の有効性と今後の課題について」が12月7日、(公財)日本障害者リハビリテーション協会によって都内で開催された。文科省や厚労省、障害当事者や教育実践者などが、障害児支援の在り方や課題などについて、幅広い視点から話した。

厚労省からは、日詰正文発達障害対策専門官が登壇。代表的な発達障害や、今年5月に成立した改正発達障害者支援法のポイントを説明した。

同法の改正で大切となるのは、①ライフステージを通じた切れ目のない支援②家族などを含めたきめ細かい支援③地域の身近な場所で受けられる支援——。①では、進学や就労時の効果的な引き継ぎ、強度行動障害やひきこもりなどへの予防的な関わり、②では、当事者や保護者へのサービス等の情報提供、③では、公共交通機関などの環境整備や発達障害者支援センターなどによる現場サポート——が重要とした。

文科省からは、田中裕一特別支援教育調査官が登壇。合理的配慮と基礎的環境整備について話したほか、ICT活用の現状と課題、留意点にも触れた。音声教材については、「それぞれの子供の特性に合わせて活用するのが大切」と話した。

同セミナーでは、手話通訳やパソコン要約筆記が行われ、さまざまな人が参加して理解を深められるような配慮がされていた。

同週間の取り組みの1つである「障害者週間のポスター原画展」は、JR東日本有楽町駅の駅前地下広場で、9日まで開催。全国の小・中学校などから公募した「心の輪を広げる体験作文」および「障害者週間のポスター」の優秀作品の原画を展示している。

### 障害者や家族の体験記に NHK障害福祉賞の贈呈式 NHKニュース 2016年12月7日

障害のある人やその家族などがつづった優れた体験記に贈られる「NHK障害福祉賞」の贈呈式が、東京・渋谷のNHK放送センターで行われました。

「NHK障害福祉賞」は、障害のある人や、その家族など支援する人たちの体験や活動を広く知ってもらおうと、NHK厚生文化事業団とNHKが設けています。

51回目のことは、383の作品の中から6作品が入選し、最優秀賞には兵庫県姫路市の主婦、伊藤議代さんの「へん子の手紙」が選ばれました。

この作品で伊藤さんは、自分自身や家族に宛てて手紙を書くことで、発達障害で行動が遅れがちなことを周りから理解されない苦しみを乗り越えられるようになった経験をつづっています。伊藤さんは、「書くことは私の中でとても大切な生活の一部です。自分に宛てた手紙が実を結んだことをうれしく思います」と話していました。

また、高齢化社会の生き方をテーマにした「NHK銀の零文芸賞」の贈呈式も行われ、最優秀賞は、散歩中に脳梗塞で倒れた高齢の男性が、通りすがりの人に助けられて感じた地域とのつながりを描いた大阪の松嶋チエさんの小説、「散歩道」に贈られました。

入選作を集めた文集は全国の図書館などに配られるほか、一部はNHK厚生文化事業団のホームページで紹介されます。

## 妖精に、動物に 障害者踊る...名古屋で10日 読売新聞 2016年12月08日

ダウン症や自閉症の子供ら約100人による創作ダンス「親指王子」の公演が10日、名古屋市中区のナディアパークで開かれる「全国障害者芸術・文化祭あいち大会」で披露される。

童話「親指姫」をアレンジしたもので、県内各地の障害者らが妖精や動物に扮して踊る。西尾市などでダンスを指導しているこかちかこさんが、脚本や振り付けを担当。「全員が命を持った役を自覚的に表現してほしい」と、動物が多数登場する親指姫をモデルにした。

少し頼りない小さな王子が、カエルやモグラ、野ネズミなどと出会いながら成長していく全20シーンの公演は約40分。各シーンにダンスが織り交ぜられている。こかちさんは「素直だから役への入り方がすごい。心を開いて踊るので、見ている私たちも心を揺さぶられる」と話す。

出演者は、11月20日に刈谷市で開かれた国民文化祭で、短縮版を演じて自信を深めており、今月4日には、豊田市で、本番の衣装を着た通し稽古を繰り返した。

親指王子の開演は、午前10時50分と午後2時。無料。問い合わせは実行委員会事務局(052・954・6697)。

## 障害への理解深めて 取手で「アピールウォーク」 産経新聞 2016年12月8日

障害への理解を深めてもらうための「アピールウォーク」が、取手市内で行われた。参加した市民らは同市寺田の福祉交流センターを出発し、JR常磐線取手駅西口までの約4キロを行進した。

障害者支援団体などでつくる「とりで障害者協働支援ネットワーク」(染野和成代表)が行ったもので、同ネットワークは障害を持つ人が安心して暮らせる社会の実現を目指している。

染野代表(64)は「周囲の目が少しずつ変わってきたと感じる。車椅子にも違和感がなくなってきたようだ」と話していた。

## 被告が起訴内容認める 地裁で窃盗の元介護士初公判 中日新聞 2016年12月8日

訪問先の障害者の財布から現金を抜き取ったとして、窃盗罪に問われた永平寺町轟、元介護士前田雪絵被告(30)の初公判が七日、福井地裁(熊谷大輔裁判官)であった。前田被告は「間違いないです」と述べ、起訴内容を認めた。

検察側は冒頭陳述で、前田被告は旅行費用に充てるため、八月下旬ごろに訪問介護先の女性宅で財布から現金を盗み、その後も同様の犯行を繰り返していたと指摘した。

起訴状によると、前田被告は九月二十八日、福井市内の訪問介護先で、女性の財布から一万円を、十月二日には市内の別の訪問介護先で、女性の財布から三万円を抜き取ったとされる。次回の二十八日の公判で追起訴分を審理し、結審する予定。

### ◆怒る被害者女性や別の被害者の夫

「(障害があるために)被告を問い詰めることも、用心することもできない。絶対に許せない」

検察官が調書に記載された被害者の怒りの声を読み上げると、弁護人の席の前に座った前田被告はうつむいたまま聞いていた。

検察側によると、警察が自宅に設置したカメラの画像から、被告の犯行であることを知った被害者の女性は、悔しさをあらわにした。脳性まひの障害があるため会話ができず、車いすを使い一人で生活していたという。

もう一人の被害者の女性も脳性まひで、車いすで生活していた。夫は財布の一万円札が

なくなっていることを不審に思い、自宅を訪れる複数の介護士の中の「誰かが怪しい」と疑っていた。ただ「介護士には世話になっており、証拠もないので、警察沙汰にするのはちゅうちょした」。捜査の過程で前田被告の犯行と分かり、夫は「無実のほかのヘルパーを疑ったことをおわびしたい。裏切られた気持ちでいっぱい」と話したという。

前田被告は特別養護老人ホームで勤めた後、約十年前から訪問看護を行う会社で勤務していた。県障害福祉課によると、十二月一日現在、県内には障害者の訪問介護をする事業所は百五ある。

今回の事件を受け、同課は、通所や入所を含む県内の全ての障害福祉サービス事業所に対し、利用者の金銭管理を適正にしているか再点検し、従業員の職業倫理を徹底するよう十月末に通知した。

担当者は「残念な事件はあったが、多くの介護士は懸命に取り組んでいる。今後も適切なサービス提供をお願いしたい」と話した。（片岡典子）

### すまサポさが、独自の保証システム普及へ 障害者も入居しやすく

佐賀新聞 2016年12月08日

障害者や一人暮らしの高齢者が賃貸住宅に居住できるよう支援する「すまサポートさがプロジェクト（すまサポさが）」の協力事業者の集いが佐賀市であった。保証人がいなくても賃貸契約を結べる独自の保証システムの普及を目指すことを確認した。

同プロジェクトは、障害者を対象にしたビジネススクール「ユニカレさが」（佐賀市）の大野博之代表らが、社会的に立場の弱い人が安心して暮らすためのビジネスモデルとして考案。6月の始動後、県内の不動産会社など約20社が協力し、現在9件の支援実績があるという。「佐賀を社会的弱者の方々にとって住みやすい町にしたい」とあいさつする大野博之代表＝佐賀市のロイヤルチェスター佐賀



大野代表は「全国初の画期的なシステムで佐賀を社会的弱者の方々にとって住みやすい町にしたい」とあいさつ。山口祥義知事が「高い志を持って一歩ずつ着実に進んでほしい」とエールを送った。

集いには、プロジェクトに協力している不動産会社や事業に興味のある企業などから約30人が参加した。

### 保育士の職種別給与(月額)



### 中堅保育士に新役職、月給4万円増へ 来春私立認可向け

朝日新聞 2016年12月7日

厚生労働省は、私立の認可保育所で働く保育士向けに、来年4月から新たな役職を設ける方針を固めた。勤続7年以上になる中堅保育士が対象で、毎月の給与に4万円を上乗せする。人材不足が深刻な保育士の離職を防ぐ狙いがある。公立保育所や認可外保育所には適用されない。

私立の認可保育所の給与は公定価格に基づき勤続年数に応じて毎年5～16%加算されるが、勤続11年で頭打ちになる。一般的な保育所には園長と主任保育士がそれぞれ1人ずついるが、それ以外の保育士については役職に応じた増給ができていく仕組みだ。そのため他の職種との賃金格差が生じる一因となっている。

そこで、月給に4万円を上乗せできるポストとして、主任保育士に次ぐ役職の「副主任」と、保育に必要な高い専門性を身につけたリーダー職を創設。7年以上の勤務経験があり、厚労省が指

定する研修を修了した保育士を対象とする。副主任やリーダーを配置できる人数は、保育所の規模に応じて決める。研修では、障害児保育や食育、保健衛生といった専門6分野や、組織マネジメントについて学ぶ。

職務経験3年以上の若手職員についても、専門分野の研修を修了した場合に月5千円程度を上乗せする。調理員らの待遇も改善させる方針。財源は計約1千億円程度とみられ、来年度予算案に盛り込むため年末までに財務省と調整する。(伊藤舞虹)

#### 阪南市「総合こども館」計画 見直しPT初会合 MBS ニュース 2016年12月8日

「総合こども館」計画が白紙撤回された大阪府阪南市で、今後の幼稚園や保育所のありかたを検討するプロジェクトチームの会合が初めて開かれました。

7日、午後2時から阪南市役所で開かれたプロジェクトチームの初会合には、総務や福祉などを担当する12人のメンバーが出席しました。老朽化などを理由に7つの公立幼稚園と保育所を1つの認定こども園に集約する「総合こども館」計画を巡っては、今年10月、白紙撤回を掲げた水野謙二市長が当選しました。水野市長とメンバーは、耐震基準を満たしていない幼稚園2か所と総合こども館を建てるために市が購入した家電量販店の跡地を視察しました。

「ここでは600人を超える子どもたちの健康や命を守るのは難しかったなという思いは改めてしました」(水野謙二阪南市長)

今後、プロジェクトチームでは、国から既に受けている交付金の問題や家電量販店の跡地の利用方法などについて議論を進めるといふことです。

#### 愛媛) 新居浜の保育園、無断で定員超過 保育料も徴収 朝日新聞 2016年12月8日

新居浜市にある私立認可保育園「みなと保育園」(多田羅弘美園長)が、市が保育を委託した園児121人とは別に19人を無断で預かっていたことが、県と市が合同で行った臨時監査でわかった。園は19人の保護者から直接、保育料を徴収していた。児童福祉法や子ども・子育て支援法に違反する可能性があり、市などが事情を聴いている。

市によると、この園は1954年に開設され、現在は定員100人の認可保育園。施設面積や保育士の数などの運営基準から、市が121人の入所決定をし、保育を委託していた。

しかし、10月3日の臨時監査で在籍園児が19人も多いことが判明。19人の保護者からは園が独自に決めた保育料を直接徴収して簿外処理していたという。徴収した金額や使途などについては十分な資料がなく、調査を進めているという。(寺尾康行)

#### 出所者の復帰支援、再犯防止推進法が成立 産経新聞 2016年12月7日



「再犯防止推進法」が全会一致で可決、成立した参院本会議＝7日午後

刑務所を出た人の再犯を防ぐための取り組みを国と自治体の責務と明記した議員立法「再犯防止推進法」が7日、参院本会議で全会一致で可決、成立した。仕事や住居、身寄りがないため、社会復帰が困難な出所者の支援を強化し、再犯を抑制する。法務省は専門の部署「再犯防止推進室」を設置し関係省庁とも連携を取りながら対策を進める。

法務省によると、平成26年に刑務所を出た人が2年以内に再び入所した割合は18.5%。また「再犯者率」(摘発された人に占める再犯者の比率)は、48%(27年)に上り、年々上昇している。

同省は出所者を雇用する「協力雇用主」に奨励金を出したり、厚生労働省と連携して出所者の福祉サービスを速やかに行うなどの施策に取り組んでいるが、今回の法制化でより総合的、計画的な対策を目指す。

法案には、矯正施設に収容中だけでなく社会復帰後も途切れることなく支援する一などの基本理念が盛り込まれた。

国は、再犯防止に向けた教育、職業訓練の充実▽職業や住居の確保一などについて推進計画を策定する。都道府県や市町村もそれに基づいて、地域の状況に応じた計画を立てる努力義務を負う。国民の関心と理解を深めるために、毎年7月を「再犯防止啓発月間」とすることも盛り込まれた。

法務省の「再犯防止推進室」で計画案の作成などを行うほか、犯罪対策閣僚会議の下に関係省庁の局長級で構成する会議を新たに設け、詳細を検討する。

## 定年後をいかに生きるか 米国での事例研究を本に 神戸新聞 2016年12月7日



「シニア層が地域の一翼を担う仕組みを、充実させてほしい」と話す加藤泰子さん＝神戸市中央区

60、65歳の定年後をいかに生きるかは、シニア世代の悩みの一つだ。ひょうご震災記念21世紀研究機構（神戸市中央区）の主任研究員加藤泰子さん（58）は「多世代が暮らす地域コミュニティで、役割を果たす存在になることが重要」と指摘。アメリカでの事例研究を著書「高齢者退職後生活の質的創造」にまとめ、「福祉の対象者ではない、新たなシニア像を提案したい」と話す。（広畑千春）

加藤さんは、元中学・高校の教師。アメリカ社会に興味を持って研究、53歳で博士号を取得した。両親も高齢になる中、「質の高い生活とは何か」と悩み、高齢者の生活をテーマに選んだという。

2015年の国勢調査では、日本の65歳以上人口は約3340万人と全人口の4分の1を超えた。元気な高齢者も多い一方で、増大する社会保障費を補うための増税問題など、若年層の負担感は強まっており、加藤さんは「意識の面でも、世代間の分断が進んでいるのでは」と懸念する。

本は、アメリカの大都市郊外▽大都市都心▽地方のスマールタウン▽シニア専用住宅地一と、異なる地域コミュニティで暮らす高齢者の姿を紹介する。

日本のニュータウンのような大都市郊外の住宅地に住む高齢者は、イベントなどへの参加・運営を通じて、退職などで失った役割意識を、地域の中で新たに獲得していたという。大都市都心の集合住宅などでも、もともと多世代の住民向けの活動が多いこともあり、同様の傾向が見られた。

また、地方の小都市に似ているスマールタウンでは、高齢者が、近くに住む家族や親族との交流をメインに、親や祖父母としての役割などを途切れず果たしていた。

これに対し、ゲートで囲まれたシニア専用の住宅地の場合、講座やクラブ活動などは豊富で、利便性や安全性も高く、仲間意識や生活への満足感はあるが、「社会的な役割を得る」という点では課題もあった。

「子どもや若い世代、自分より高齢な人たちなど、さまざまな年代の人と積極的に関わることが、自分への自信やエネルギーにつながっている」と加藤さん。「日本でももっと高齢者が主体的に活躍する場が増えれば、若い人の高齢者観も変わっていくはず。自分と同じか、少し年上の人たちがどんな活動をしているのか、将来に向けて参考になれば」と話している。

A5判、328ページ。3996円。東信堂TEL03・3818・5521

## イラつき 6秒待とう 怒り制御指導 最優秀

中日新聞 2016年12月8日



キッズインストラクターの活動で全国最優秀に選ばれた沢田慎一郎さん＝輪島市水守町で

### 輪島の沢田さん 協会選出

自分の怒りを制御する方法「アンガーマネジメント」を子どもに指導している輪島市水守町の沢田慎一郎さん（43）が、認定する協会の二〇一六年度の最優秀キッズインストラクターに選ばれた。全国約二千八百人の中で最高の評価を受けた沢田さんは「石川県が日本で一番浸透している場所にしたい」と力を込める。（山本義久）

アンガーマネジメントは、怒りと上手に付き合い、コミュニケーションに結び付ける心理技術。一九七〇年代に米国で始まった。日本では社団法人「日本アン

ガーマネジメント協会」（東京）が、育成に取り組んでいる。表彰式は十一月下旬、大阪府であった。

沢田さんは普段、市内の介護施設で介護福祉士として働いている。高齢者の世話をしているストレスがたまり、いらつくときがあった。心を落ち着かせる方法をインターネットで検索して同協会を知り、一三年に講座を受講、大人と子ども両方のインストラクター資格を取得した。

奥能登で唯一の存在として活動。輪島市内の母親から子どもがすぐ怒ると相談を受け、昨年からは小学生を対象にした講座を始めた。自宅や市内の公民館をはじめ、金沢市内や東京都内にも出掛けて二十回以上開き、二百人近い児童に自分の気持ちを適切に表現する方法を伝えてきた。

沢田さんは、約一時間の講座で児童の集中力が途切れないよう、スーパーマンの姿で数字の6をかたどった帽子をかぶり、「スーパーマン」として登場する。「イライラしたら六秒待とう」と呼び掛け、スーパーと深呼吸させて落ち着かせる。人は怒ると最初の六秒でアドレナリンが強く出るといわれており、感情を調節するためまず六つ数えることが大切と教える。

最近、街中で講座に参加した児童から「六秒数えることができた」と話し掛けられるようになったという。沢田さんは「うれしくて、励みになった。怒ることは悪くない。まず心を静めてから、自分の気持ちを伝えられる人になってほしい」と話している。

## 民生・児童委員充足率が93% 担い手不足深刻化

大阪日日新聞 2016年12月8日



### 11月20日のイベントで学生が発表した民生委員のPRコンテンツ

大阪府が任期満了に伴って1日付で委嘱した府内37市町村の民生委員・児童委員の充足率が93・46%にとどまったことが7日、分かった。前回改選期の2013年12月1日の95・44%を約2ポイント下回り、担い手不足が深刻化した格好だ。

府地域福祉課によると、政令市の大阪、堺2市と中核市の4市を除いた今回の改選定数は5856人だが、委嘱者数は5473人だった。

同課の担当者は「どの市町村も担い手探しに苦慮している」と話した。

担い手の確保を巡って、府は11月20日に府立大、関西学院大、立命館大と協力して学生の民生委員・児童委員活動体験を通じた「魅力」や「やりがい」の見える化イベントを実施するなどの対策を講じている。

ただ、高齢単独世帯の増加や地域コミュニティの希薄化を背景にした負担の増大は懸案になっており、全国の充足率も97・9%（14年度末時点）と担い手不足傾向にある。

民生委員・児童委員は特別職の地方公務員で任期は3年。無報酬のボランティアとして活動を続けている。

#### 聴覚障害の客の入店拒否、京都 居酒屋が対応謝罪 共同通信 2016年12月8日

京都市内の居酒屋が、聴覚に障害のある客の入店を拒否し、支援者が京都府の窓口にご相談していたことが8日、府への取材で分かった。

府によると、昨年8月、居酒屋を1人で訪れた府外在住の客が従業員に入店したい旨を手話で伝えたが、従業員は身ぶりで入店を断り、筆談はしなかった。

支援者が府の窓口にご相談。後日、店側が府の相談員を通じ「従業員の対応が不適切だった。今後は注意して対応したい」と客側に謝罪したという。

府は昨年4月、合理的な理由がある場合を除き、障害者に不利益な扱いをすることを禁じた条例を施行。事業者には「合理的配慮」をするよう努力義務を課した。

#### 武雄市児童、ユニバーサルマナー学ぶ 佐賀新聞 2016年12月08日

障害者の気持ちを学ぶワークショップで、坂道を前にした車いすの人の気持ちを考えて書き込む子どもたち=武雄市図書館

絵本を通して障害がある人の気持ちを学ぶワークショップが4日、武雄市図書館であった。9人の子どもたちが「何かお手伝いしましょうか?」と声を掛ける大切さを感じ取った。

ユニバーサルマナー協会所属で視覚障害のある原口淳さんが、車いすのクマ「ユニー」が友達の誕生会に出掛ける様子を描いた絵本を使って話した。

ユニーはバスに乗る時、プレゼントを買いに花屋に入る時、花を持って坂道を登る時などいろんな場面で困ってしまう。原口さんは「ユニーは今どんな気持ち」と尋ね、子どもたちの思いを引き出した。絵本では「メイ・アイ・ヘルプユー（何かお手伝いしましょうか?）」と声を掛けて助けてくれる人が出てきて、荷物を持ったり、車いすを押したり手助けした。

原口さんは「これは絵本の中だけの話じゃない。みんなの周りにも困っている人はいる。声を掛けてあげて」と呼び掛けた。親子で参加していた東川登小2年の原口俊太郎君は「声を掛けることができる人になりたい」と感想を話していた。

ユニバーサルマナーは、障害者や高齢者、外国人などの人のことを考え、行動すること。武雄市が職員に広げる活動を始めている。ワークショップは“子ども版”として、小学1～2年生を対象に開いた。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

